

ユネスコ

2023.10
vol. 1178



U-Smileプログラムで沖縄旅行を実施。体験格差を解消し、人と関わる力や自己肯定感を培う (p3参照)

CONTENTS

- 1 特集：新事業「U-Smile
～みんなでつなぐ子ども応援プログラム」
 - 教育と社会の課題担当理事 小山田隆氏に聞く
- 3 ●事業紹介
- 5 ユネスコ活動の広場
 - ESD学習会
 - 青年評議員連絡会
- 6 TOPICS
 - 哀悼 児島 仁 第9代会長
- 7 活動報告
 - 世界寺子屋運動 ネパール寺子屋現地レポート
 - 「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」支援報告
- 9 新役員および評議員
- 10 定時総会・理事会・評議員会報告
- 11 お知らせ

新事業「U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム」開始

少子高齢化や物価の高騰など、日本は現在さまざまな社会課題を抱えています。中でも、子どもたちを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、より一層厳しい状況となっています。相対的貧困 (p2 参照)、虐待やネグレクト (育児放棄)、外国にルーツを持つなどさまざまな理由により、困難な状況に置かれた子どもたちが孤立して取り残されています。

日本ユネスコ協会連盟は今年4月より、このような厳しい状況にある子どもたちを対象に「U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム」を開始しました。本事業では、地域で幅広く協働し、子どもたちを包括的に支援することで、基本的な生活習慣や学習習慣を身につけてもらい、人や社会と関わる力や自立して生き抜く力を養うことを目的としています。そして、すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会となることを目指しています。



教育と社会の課題担当理事 小山田隆氏に聞く

日本では子どもの7人に1人が相対的貧困^{*1}にあるといわれています。そういった困難な状況に置かれた子どもたちが、生き生きと成長していける社会を目指して始まったのが標記事業です。三菱 UFJ 銀行特別顧問であり、日本ユネスコ協会連盟理事として本事業を率いる小山田隆氏に、子どもたちへの思いや課題、目指すことなどをお話いただきました。（教育と社会の課題支援部）

子ども支援の原点となった東日本大震災

2009 年から 12 年まで、私は三菱東京 UFJ 銀行（現三菱 UFJ 銀行）CSR 推進部の担当役員で、主に若者を対象に、国際交流や環境活動支援などを通じた次世代育成に取り組んでいました。ところが、その間の 2011 年に東日本大震災が発生し、状況が変わりました。被災地を訪ねると、小学校脇の川にはランドセルや机などがまだ山のように残されていて…。そういう情景を目の当たりにし、これまでやってきたノウハウを総動員して何かやらなくては、という思いに駆られたのです。それで立ち上げたのが MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金です。震災で遺児・孤児となった小学生・中学生・高校生への奨学金プログラムや、津波で流された花壇の再生、チャリティサッカーへの招待や奨学生との交流会などの体験イベントを実施しました。とにかくバタバタでしたが、支援した子どもたちから多くのお手紙をいただき、厳しい状況乗り越えて元気に生活されているご様子を伺うと、やってきたことがちゃんと届いているなと感じています。

東日本大震災では、MUFG（三菱 UFJ フィナンシャル・グループ）にとっても私自身にとっても貴重な体験をさせていただきました。それが、子どもへの支援を強く意識するようになった原点です。



MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金では、被災地の学校で花壇を再生する活動も行なった。MUFG 社員がボランティアとして参加

なぜいま「子どもの貧困」なのか

以前「誰も知らない」^{*2}という映画を観て、こういう子どもたちもいるのだと衝撃を受けたことがあります。ただ、そこから直ちにいまの活動につながっているわけではありません。

2020 年ごろ、ある方に、日本では 7 人に 1 人、200 万人以上の子どもが相対的貧困にあり、それがひとり親家庭では 2 人に 1 人になると伺い、居場所支援の現場に誘われました。そこには、ひとり親の子どもが多く、夏休みになると給食がないからやせてしまう子どももいると聞きました。しかし、親御さんが迎えに来るまで、ボランティアの学生さんたちとお話をしたり、皆で遊んだり、夕食を一緒に食べたりと、家庭でもない、学校でもない第三の居場所で過ごすことが、困難を抱える子どもたちにとってもいい影響

を与えているようでした。災害時だけでなく、日本には平時にもそういう世界がある。現場に行って初めて、支援を必要としている子どもがたくさんいると感じたのです。

相対的貧困は孤立とリンクしています。社会からはなかなか見えません。さらにコロナ禍の 3 年間で、外へ出て積極的に人と交わることのハードルを上げました。そういう意味では、困難な子どもをもっと能動的に支援する必要性が増しているのは間違いありません。

ネグレクトや虐待、ヤングケアラーといった保護者の問題は、すべて社会とつながっています。ひとり親世帯の貧困率が 50% というのは、公的支援のあり方や非正規の働き方の問題とも関係します。その意味で単に家庭の問題というより、社会の構造的問題であるようにも感じます。この事業でそこまで広げるのは難しいですが、プログラムには保護者支援も盛り込み、最終的にはそういうところまで手が届くような支援ができればと思っています。

「地域協働」と「包括支援」を両軸に

支援を必要としている子どもたちを、然るべき場へ自然に連れてくる。これがいちばん難しくて大事なことです。昨年来、レストラン事業を行っている山口県宇部市では子ども支援を積極的に行っている NPO の理事長が小児科医なので、子どもを診る過程で「この子はもう少しケアが必要ではないか」と、自らの NPO で面倒をみたり、地域の方々とも連携をしながら対応されています。こういう草の根活動や連携がネットワーク的に広がっていくことが大切だと思います。また、地域の中には、教育委員会と自治体が、教育と福祉の壁を取り払って一体になって子どものケア、サポートを行っているところもあります。ただ、普通は教育委員会と自治体は分かれていますから、子どものトータルな事情は把握しづらい状況にあります。そこで、いろいろなサインを見逃さないために、我々 NGO と専門家、そして地域の学校や企業・団体、学生とも協働しながら、連携のネットワークができればと思います。

この「地域協働」を横軸に据え、縦軸としては、子ども食堂だけ、学習塾だけというのではなく、居場所をつくり、学習や体験支援をし、子どもたち一人ひとりが自立していけるような「包括支援」の流れをつくる。そうやって、両軸で細やかに子どもたちを育んでいけるようなフォーメーションが必要だと思っています。全国約 270 のユネスコ協会・クラブは、さまざまな活動方針の下で多様な活動を行っています。多くのユネスコ協会・クラブは自然探訪や郷土学習など地元の子どもの体験活動を得意としています。教育関係の方もたくさんいらっしゃいますし、地域に根差したさまざまなネットワークを持っています。それらは、この事業を推進する上での大きな強みといえます。

相対的貧困にある子どもは、体験格差とも言われているように、

地域での協働を横軸に、

面のセーフティネットで
子どもたちを支援したい

包括的支援を縦軸にして、



社会体験や感動体験の機会が圧倒的に少ないので、一緒に野球を見に行くとか、キャンプをしてみるとか、何か体験することで心にいろいろなスイッチが入ると思います。昨年度実施した2泊3日の体験旅行では、さまざまなアクティビティもさることながら毎日決まった時間に起きて、3食きちんと食べて、お風呂に入ると、そうした日常的なことが、子どもたちにとっては大事だと気づかれました。そういう体験をもっともっとさせてあげたいです。

地域でのつながり、企業と学生とシニアが力を出し合って

宇部市では、地元銀行の協力で「おかねを学ぶ教室」を実施しました。この銀行は宇部ユネスコ協会の団体会員ですが、今回のことがきっかけとなり、子ども支援のためのいろいろな活動を始められました。子どもたちへの支援活動を通じて、地域はまとまり、包括支援に向けての役割分担も見えてくると思いました。他の地域でも、試行錯誤はありますが、困難な状況にある子どもたちを育み、その成長をサポートしたいとの皆さんの思いはしっかりある、と改めて心強く感じているところです。

企業は地元と運命共同体。子どもたちを育む責任は企業にもあるように思います。だから、工場見学や船舶試乗など、企業なりのやり方で子どもたちにいろいろな感動体験をさせてあげてほしい。同時に学生にも期待しています。一緒に地域ボランティアとしてやってもらえる仕組みをつくり、地域協働の担い手の中に多くの企業や学生を呼び込みたい。それから、元気なシニアの方々にも子どもたちを支える担い手として頑張っていただきたい。その豊富な知識や経験は子どもたちを育む貴重な社会資産です。地域のつながりの中で、企業と学生、そしてシニアがそれぞれのリソースを出し合い、子どもたちが未来に夢を持って成長していけるような社会にしていきたい。微力ですが、この事業がそういうことのきっかけになればと思います。



地元銀行の協力を得て実施した「おかねを学ぶ教室」。模擬紙幣を数え、名刺交換をするなど、働くことへの意識につながる社会体験となった

※1：相対的貧困：世帯の所得が、その国の等価可処分所得の中央値の半分に満たない状態。（2018年厚生労働省）

※2：「誰も知らない」：2004年公開。母子家庭で母にネグレクトされた兄妹4人が、子どもたちだけで生きていこうとする物語。監督は是枝裕和。

プロフィール／おやまだ たかし

東京大学経済学部卒業。1979年三菱銀行（現三菱UFJ銀行）入行。2014年副頭取。15年三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）副社長を兼務。16年三菱東京UFJ銀行頭取に就任。17年から特別顧問。当連盟とは守ろう地球のたからものプロジェクト、ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクトを協働し、11年MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金を両者で設立、22年に当連盟の教育と社会の課題担当理事に就任。東京マラソンほか、フルマラソンにも出場した経験を持ち、いまでも毎月100kmを目指して走っている。

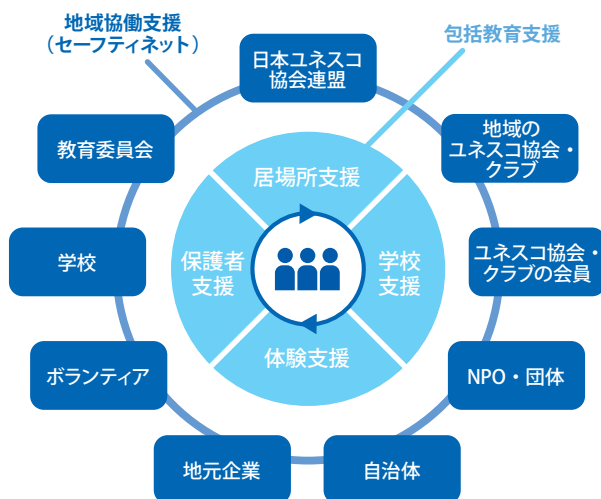
■ 事業の背景

日本の子どもの7人に1人が相対的貧困の状態にあります。また、ひとり親世帯に限ると2人に1人が貧困状態です。貧困、虐待やいじめ、ネグレクト（育児放棄）、外国にルーツを持つなどのさまざまな理由により、困難な状況に置かれた子どもたちの将来の可能性は、大きく閉ざされています。

教育機会に恵まれなかった子どもたちは、所得の低い職業につかざるを得なくなり、さらには、その子どもが教育を受けられなくなるという悪循環が続き、次の世代に貧困が連鎖します。また、子どもたちの貧困問題を放置することで社会的損失が発生することが懸念されています。そのため、困難な状況に置かれている子どもたちへの支援は、彼らの将来を守るとともに、日本全体の未来にとっても重要な課題となっています。

■ 事業の概要

1. 本事業の対象となる子どもは、相対的貧困やさまざまな理由により困難な状況に置かれている日本の子どもたちです。基本的な生活習慣や自己肯定感を身につけ、人や社会と関わる力や将来の自立に向けて生き抜く力をつけることを目的としています。
2. 個別支援的なアプローチに止まらず、「地域協働」かつ「包括教育支援」で、事業を推進していきます。地域のユネスコ協会・クラブ、自治体、NPO、学校、企業、住民など、地域で密接に連携し、役割分担の上、ネットワーク的かつ有機的に協働し、生活習慣、学習習慣、自己肯定感の醸成など、子どもたちの自尊・自律を促す包括的な教育学習支援を目指します。



3. U-Smile 助成制度を設けています。ユネスコ協会・クラブの自主的な取り組みに、活動資金だけでなく他団体とのコーディネートなども含めて支援していきます。

■ U-Smile 助成事業 事例紹介

① 食事付個別指導型無料塾「ステップアップ塾 前橋敷島教室」 NPO 法人維新隊ユネスコクラブ（東京都）

経済的な理由で一般的な塾に通えない子どもたちを対象とした食事付学習塾を開き、高校生や大学生の講師ボランティアが、小学4年生～中学3年生10名の学習指導を行っています。授業の参加方法は対面・オンラインを選ぶことができ、対面の参加者には授業後に食事の提供を行っています。

また、平日の月～金曜日は18～21時に無料で利用できる自習室として開放しています。登録者は自由に利用でき、室内の軽食や、教材・Wi-Fi・PC・コピー機の使用も無料です。

この無料塾では、学習を通じた放課後の居場所を確保し、学力差を是正する一助となることを目指しています。



利用者の声

- 勉強以外のことも話せるのが嬉しいし、先生と一緒に食事をするのも楽しい。(中1)
- 子どもの学習意欲が上がり勉強の時間を大変楽しみにしています。(保護者)

② 沖縄体験旅行

宇部ユネスコ協会（山口県） / 沖縄県ユネスコ協会（沖縄県）

宇部市の居場所支援団体「一般社団法人キッズラップ」に通所する15名の子どもたちが、沖縄県ユネスコ協会の協力を得て、2泊3日で沖縄へ旅行しました。復興作業中の首里城の見学やマリナクティビティのほか、訪問した糸満市の方から海人について学び、地元の方と一緒にビーチクリーンをしました。沖縄県ユネスコ協会との交流会では、ユネスコ活動の紹介と平和について話をいただきました。子どもたちが主体的に社会学習に向き合い、異文化に触れる経験やさまざまな大人との出会いを通して、将来の夢や希望を思い描く力を培う機会となりました。また、集団生活を通じて規則正しい生活リズムを身につけることにもつながりました。

利用者の声

- 初めて飛行機に乗れたし、いろいろな人と会った。とても楽しかった。(中2)

Pick UP! 宇部市と連携協定を締結しました

当連盟と山口県宇部市は、「こどもの未来共創に向けた連携及び協力に関する協定」を9月28日（木）に締結しました。困難な状況に置かれている子どもたちを対象に、教育支援、居場所支援などの地域協働型の包括的教育支援事業を官民連携で実施します。宇部市、宇部ユネスコ協会、地元支援団体、地元企業（宇部日報、山口銀行、UBEほか）、地域住民などによる地域連携のワーキングチームを組成し、地域に根差した活動計画を推進してまいります。



U-Smile プログラムに ご協力をお願いします！

皆さまのご支援で

- ・居場所がない子どもたちを安心できる場所につなげます
- ・子どもたちの学びを支え学習意欲の向上につなげます
- ・子どもたちへ感動体験を与え社会を生き抜く力につなげます

困難な状況に置かれた子どもたちのために、温かいご支援をお待ちしています。

寄付方法

○ 郵便振替

00190-4-84705

加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※通信欄に「U-Smile」と記入してください。

※振込手数料免除

○ 銀行振込（U-Smile プログラム専用口座）

三菱 UFJ 銀行 恵比寿支店 普通 0226925

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※振込手数料免除（三菱 UFJ 銀行本店、支店窓口または同行 ATM からの振込に限る）

お問合せ：教育と社会の課題支援部

TEL 03-5424-1121

○ インターネットからの寄付

※支援先を「U-Smile プログラム」
にご指定ください。



今回のみのご支援



定期的なご支援
(月1・いいことプログラム)

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

ユネスコ活動の広場

ユネスコ活動のヒントが見つかる「ESD 学習会」

ESD は SDGs 達成の鍵

持続可能な社会の担い手を育てるための教育である ESD (Education for Sustainable Development) は、日本が提唱した教育分野における国際的な取り組みです。[ESD for 2030] (2019 年国連総会承認) では、ESD は SDGs の “key enabler (成功の鍵)” と位置づけられ、また国内では、ESD は学習指導要領において基盤となる理念とされています。

ESD の取り組みを皆で考える「ESD 学習会」

一方で、ESD の理解や普及が教育現場や地域社会で進んでいない、具体的にどう活動すればいいかわからない、などの声も聞かれます。

そこで、昨年から、ユネスコ協会・クラブの有志会員による「ESD の理解と活性化のための学習会 (ESD 学習会)」がオンラインで始まりました。各地域での活動事例を共有し、ESD への理解を深め、活性化することが目的です。

第 4 回 (7 月 8 日開催) では広島干潟生物研究会の政木恵美子会長 (広島ユネスコ協会所属) が同研究会の活動を発表しました。干潟の生き物を学ぶ干潟観察会は、地域の子どもたちを対象としたイベントで、2013 年の活動開始から延べ 4581 人が参加しています。子どもにとって本物の自然に触れる貴重な体験の場であり、命の大切さを学び、環境を守っていく意識が養われます。参加した子どもの中には、後にガイド役になる人や、大学で生物研究の道に進んだ人もいます。

発表後、学習会参加者からは「なぜこんなに多くの参加者を集められるのか」「学校とどう連携して行っているのか」などの質問が寄せられ、議論が盛り上がりしました。

次回の ESD 学習会は 11 月に開催予定。詳細は当連盟ホームページで案内します。ユネスコ協会関係者だけでなく、ESD に関心がある方は誰でも参加可能ですので、ぜひお気軽にご参加ください。

(組織部)



第 4 回 ESD 学習会では、広島干潟生物研究会が取り組みを発表した

ESD 学習会主催メンバー

津山ユネスコ協会(岡山県) 鈴木昌徳会長

ESD 学習会は語り合いの場

他のユネスコ協会の成功と失敗事例から学び、お互いに所属するユネスコ協会の参考にしたいと 3 人(大濱〈箕面ユ協〉・見上〈仙台ユ協〉・鈴木) で協議したことが学習会の発端です。以後、徐々に同じ思いの仲間が増え、気さくに語り合っただけで今後のユネスコ活動を探る楽しい会になっています。

青年評議員連絡会が行われました

全国的青年連絡組織

長坂亮介会長からの報告

6 月 18 日 (日)、青年評議員・全国的青年連絡組織役員 (以下、全青連) による青年評議員連絡会が開催されました。対面+オンライン配信で行われ、オブザーバーも含め、23 名の参加がありました。対面で青年評議員や全青連が集まったのは数年ぶり、顔を合わせ、生の声のやり取りができることのよさを改めて実感しました。前半は、それぞれの所属協会やブロックの状況を共有しました。後半は、青年評議員の役割を整理する必要性、大学ユネスコクラブや次世代ユネスコ国内委員会との交流など、新しい展開についても意見交換がなされ、話し足りないながらも有意義な連絡会となりました。

議論の中では、青年会員全体の課題についても話し合いが行われました。隣のユネスコ協会・同じブロックのユネスコ協会・全国のユネスコ協会の青年会員と、横のつながりを大切にしながら活動することが大事だと改めて認識しました。また、青年会員が当連盟の事業 (U-Smile プログラムや災害子ども教育支援など) に積極的に参画していきたいという意見も出ました。

(組織部)



久しぶりに対面で行われた青年評議員連絡会



哀悼 児島 仁 第9代会長 (2000年～2006年)

2023年5月31日、日本ユネスコ協会連盟第9代会長を務め、その後も顧問として長く連盟を支えてくださった児島仁元会長が逝去されました(享年92歳)。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本電信電話株式会社(以下NTT)の社長等重責を果たされた後、さまざまな依頼を断って、当連盟会長という役職をボランティアで引き受けてくださったのは、“尊敬する数少ない人物の一人”であった山本卓真第8代会長からのお声かけだったと就任後に明かされました。

以来、“豪放磊落”なお人柄であったという間に私たちを魅了し、民間ユネスコ運動を力強く牽引してくださいました。年表にもあるように、児島元会長の在任中は、日ユ協連の活動がより多様化した時期でした。UNESCOが主導した「わたしの平和宣言」を和訳し、世界一多い署名を集めました。また、公的資金を獲得して海外支援を開始したほか、「民間ユネスコ運動の日」を採択するなど、エポックメイキングな出来事が多々ありました。一方で、米国では同時多発テロが起き、アフガニスタンをめぐる状況が激変するなど、国際情勢への対応にも追われました。

児島元会長のお言葉など、ほんの一部ですが、以下に紹介いたします。

One for All, All for One!

(ひとは皆のために、皆はひとりのために)

ラガーマンの児島元会長は、UNESCO憲章と通底するこの理念が原点と、就任後のインタビューで語りました。

「(活動の)思いは高く、目線は低く。地べたの活動の実践を」

児島元会長自らの発想で、NTTグループ6社のご協力のもと、地域のユネスコ協会・クラブを支援する「地域草の根活動振興助成金」が始まりました。2001年から2008年まで、毎年総額900万円の助成金が継続され、児島元会長の「思いは高く…」の哲学が浸透していきました。

気さくなお人柄はベトナムのライチャウ省でも大人気

JICAの「開発パートナー事業・ベトナム北部山岳地域における成人識字振興計画」の受託に伴い、当連盟が募った寄付で各省に1棟の「継続教育センター」を建設しました。2001年9月、西北部の山岳地域のライチャウ省で開催された第1号センターの開所式には児島元会長自ら出席され、気さくなお人柄で現地の村人たちと交流を深められました。

「足元から始まる平和」

「(前略)なにが次元の高そうな平和と、細々とした『地べたの活動』の間には断絶があるように思う方が普通です。(僕もその一人でしたが)。しかし実はそうじゃない、遠いように見える道も足元から始まるのだと認識すると、それまで小さいことに見えていたものが希望に満ちたアクションに変わる。その瞬間に元気が出る、するとまた力が入る。ユネスコ活動にも通じるものがあるのではないかな」(機関誌ユネスコ2005年1月号より)

児島会長任期中における 日本ユネスコ協会連盟の主な活動

1999年9月25日	第394回理事会にて当連盟副会長に就任
2000年3月24日	JICA「開発パートナー事業」第1号案件を受託「ベトナム北部山岳地域における成人識字振興計画」事業合意(約2億9000万円の公的資金)
2000年6月9日	第399回理事会、第51回通常総会にて 第9代会長に就任
2000年	平和の文化国際年「わたしの平和宣言」を和訳。12月31日には日本の署名119万4089が集まる
2001年3月3日	「アフガニスタン遺産救済アピール」平山郁夫 UNESCO親善大使、白川哲久日本ユネスコ国内委員会事務総長、児島仁会長が合同で緊急記者会見
2001年	児島仁会長提案による「地域草の根活動助成金」事業開始(2008年まで継続)
2001年9月7日	ベトナムライチャウ州継続教育センター開所式出席 スタディーツアーメンバー12名帯同
2001年10月5日	臨時理事会で「アメリカ合衆国における同時多発テロに関する声明」を発表
2003年	JICA「プロポーザル型技術協力プロジェクト」を通して「アフガニスタン復興支援のためのノンフォーマル教育普及プロジェクト」事業開始(約3億5000万円の公的資金)
2005年11月14日	アフガニスタン「バーミヤン教育文化センター」開所式
2006年1月21日	第440回理事会にて「民間ユネスコ運動の日」採択(毎年7月19日)
2006年6月2日	第443回理事会にて児島仁会長勇退を表明。第57回総会にて新たに顧問に推挙され、その後17年にわたり当連盟の顧問を務める

PROFILE 児島 仁 (こじま まさし)

1930年北海道深川市に生まれる。53年北海道大学法経学部法律学科卒業。日本電信電話公社入社。85年、NTT誕生と同時に常務取締役就任。同社代表取締役副社長を経て90年代表取締役社長に就任。96年取締役相談役、相談役を歴任し、2003年7月より特別顧問を務める。23年5月31日、肺炎のため逝去。享年92歳。

世界寺子屋運動 ネパール寺子屋現地レポート

ネパールでは2002年からルンビニを中心に教育支援を行っています。2020年からの5ヵ年事業は、新型コロナウイルスの影響で退学した子どもたちを対象とした小学校クラスや幼稚園クラスの開講、新しい寺子屋の建設、寺子屋運営委員への研修を行っています。

会長が各地寺子屋の様子を視察

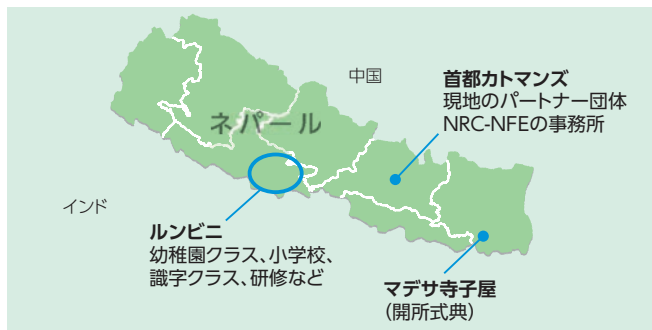
7月1日(土)～7日(金)の日程で、佐藤美樹^{よしき}会長および職員が現地を訪問しました。訪問の目的は、新しい寺子屋の開所式への参加と、既存の寺子屋の識字教育と職業訓練の実態把握でした。7日間で6ヵ所の寺子屋を訪れ、パートナー団体の事務所も訪問しました。さらに、ネパール政府で寺子屋を担当している教育科学技術省の人材育成センターと、在ネパール日本国大使館も訪れ、情報交換を行いました。

佐藤会長は、7月2日(日)、ネパール東部でインドに近いスナリ郡に新たに完成したマデサ寺子屋の開所式に出席しました。式典には、現地の国会議員や地方議員、行政関係者など50名以上が参列しました。佐藤会長は募金者の銘板の除幕式を行い、寺子屋の今後への期待を込めた祝辞を述べました。マデサ寺子屋では今後、運営委員への研修を実施し、より自立的な活動の継続を目指します。

その後、ルンビニの寺子屋を訪問し、新学期が始まった幼稚園クラスや小学校クラスの授業などを視察しました。支援が終了し、すでに自立しているアダルシャ寺子屋では、青年向けのコンピュータークラスがあり、ワードやエクセル、会計ソフトの使い方を学んでいました。インドでITの学位を取得した地元の20代男性が講師となり、地域の人びとによってうまく運営されている様子がうかがえました。



マデサ寺子屋の開所式典に参加した来賓や運営委員たち。
佐藤会長は2列目の左から3人目



これからのネパール寺子屋の展望

現在、ネパール教育科学技術省から、西部地域に新しい寺子屋を建設してほしいという要望がきています。土地の確保状況や運営委員の活動を確認し、今後検討していく予定です。また、幼稚園クラスや小学校クラス、成人向けの基礎識字クラスを継続しながら、地方政府と寺子屋の連携を強化するための研修会を開催することで、地方政府が寺子屋への支援や協力を増やしていくことを目指していきます。(海外事業部)



小学校クラスでは、たらいの中のボールをひとつずつ取り除き、ゼロの概念について教えていた

佐藤会長のメッセージ

訪問した各寺子屋では、幼稚園クラスや小学校クラスなど子どもの教育に力を入れるとともに、農家向けに牧畜の研修や、地方政府の支援を得て配線工事研修など技術訓練も行われていました。また、支援が終了した寺子屋ではパソコン教育が実施されていました。いずれの寺子屋も地域住民を巻き込み、順調に運営され、地域の状況にあわせて徐々に収入向上のための教育へと内容が変化しています。

今回の訪問を通じて、皆さまからの支援が現地の人びとの生活改善に役立っていることが確認できました。これからも、家計の問題で学校に行けなくなった子どもや文字の読み書きができない大人に教育の機会を提供していきたいと思っています。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」支援報告

ウクライナ情勢を受け、2022年3月4日に「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」を開設後、8200万円以上の募金が全国から寄せられました。皆さまからのご支援を活用し、アルムナス・ユネスコ・クラブ（ルーマニア）、チェルノフツィ・ユネスコ文化センター（ウクライナ）、シグヌス科学ユネスコ協会（ルーマニア）およびピープルインニード・スロバキアとの連携のもと、ウクライナからルーマニアやスロバキア国境付近に避難してきた人びとへの生活物資支援や一時滞在支援、メンタルケアなどを実施してきました。

今回は最新の報告として、2023年7月にルーマニアで行った支援イベントをご紹介します。



ルーマニア国内旅行ではトランシルヴァニア地方の古都シビウを訪問
※写真はすべて ©Association Alumnus Club for UNESCO

メンタルケアを目的に支援イベント「Believing in Hope」を実施

ルーマニアには約10万人の人びとがウクライナから避難してきており、その大部分は女性と子どもです。長い避難生活での心理的な負担を軽減するため、ルーマニアのアルムナス・ユネスコ・クラブが主催し、「Believing in Hope（希望を信じる）」を実施しました。

本イベントでは、子どもたちのための絵画ワークショップやルーマニア国内旅行を行い、合計で59名の子どもと母親が参加しました。子どもたちはプロの画家か



絵画ワークショップで木にペイントする



緊急募金への感謝を表したコラージュ

ら指導を受けて作品を描いたり、折り紙を作成したりしたほか、美術館やクラシックコンサート、遺跡や観光地を訪問しました。ほかにも「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」支援への感謝を表したコラージュ作品も作りました。さらに、避難生活での言語的な困難さを少しでも克服できるよう、子どもたちの母親向けにルーマニア語の講座も開催しました。

（海外事業部）

同じDNPでも 開発分野はまるで違う。

顔認証データのプラットフォーム構築、超微細印刷技術の半導体製造への応用、再生医療や文化財の保護まで。DNPには社員それぞれの多岐にわたる専門知識と、独自の視点がある。その掛け合わせが、新しい未来の姿を指し示す。だからDNPはユニークだ。理想の未来はひとつじゃない。解くべき課題はひとつじゃない。時には会社の垣根をも飛び越え生まれる無数のアプローチがきっと、

未来のあたりまえをつくる。 **DNP**

その全貌はWebで。

DNP×DNP



大日本印刷

新役員および評議員

6月17日(土)に開催された第75回定時総会で役員改選が行われました。
定時総会・第557回理事会で選任された役員・評議員は以下の通りです。
(敬称略、6月17日現在)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

2023-2024年度 役員(理事・監事)

五十音順、※は代表理事

会長	※ 佐藤 美樹	朝日生命保険相互会社 特別顧問	維持会員代表理事	理事	白石 勝洋	久留米ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
副会長	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 会長	構成団体会員代表理事	理事	鈴木 昌徳	津山ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
副会長	見上 一幸	公益社団法人仙台ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事	理事	土居 英雄	松山ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
理事長	※ 鈴木 佑司	法政大学 名誉教授	個人会員代表理事	理事	永田 佳之	聖心女子大学現代教養学部 教育学科 教授	会長推薦理事
理事	池田 敬介	東京都ユネスコ連絡協議会 会長	構成団体会員代表理事	理事	中谷 祐太	公益社団法人仙台ユネスコ協会	青年代表理事
理事	井上 波	株式会社TBS ホールディングス サステナビリティ創造センター長	維持会員代表理事	理事	名須川知子	OMEF日本委員会 会長	賛助団体会員代表理事
理事	今中 麻美	名古屋ユネスコ協会青年部 副代表	青年代表理事	理事	平井 花画	岐阜県ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
理事	大矢 和子	株式会社イオンファンタジー 取締役	会長推薦理事	理事	松前 進	厚木ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
理事	小山田 隆	株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問	個人会員代表理事	理事	安田 昌則	大牟田市教育委員会 前教育長	個人会員代表理事
理事	岸 正博	群馬県ユネスコ連絡協議会 会長	構成団体会員代表理事	理事	山中 健	芦屋ユネスコ協会 会長	構成団体会員代表理事
理事	木曾 功	元UNESCO政府代表部 特命全権大使	会長推薦理事	監事	齋藤 晴正	株式会社増田屋コーポレーション 代表取締役社長	
理事	小林 敬一	古河電気工業株式会社 取締役会長	会長推薦理事	監事	増田 正志	増田公認会計士事務所 公認会計士	
				監事	古崎 晴子	特定非営利活動法人 市川市ユネスコ協会 特別顧問	

2023-2024年度 評議員

【構成団体会員代表】 62		中部西		ふくいユネスコ協会		【維持会員代表】 5	
ブロック	協会名	近畿	舞鶴ユネスコ協会		朝日生命保険相互会社		
北海道	北海道ユネスコ連絡協議会	近畿	彦根ユネスコ協会		中央日本土地建物株式会社		
	札幌ユネスコ協会		大阪府ユネスコ連絡協議会		株式会社 TBS ホールディングス		
	小樽ユネスコ協会		奈良ユネスコ協会		日本電信電話株式会社		
東北	盛岡ユネスコ協会		神戸ユネスコ協会		古河電気工業株式会社		
	花巻ユネスコ協会		芦屋ユネスコ協会				
	一関ユネスコ協会		川西ユネスコ協会		【賛助団体会員代表】 2		
	岩手県ユネスコ連絡協議会		和歌山ユネスコ協会		ICOM日本委員会		
	気仙沼ユネスコ協会		橋本ユネスコ協会		OMEP日本委員会		
	酒田ユネスコ協会		中国	岡山県ユネスコ連絡協議会			
	秋田ユネスコ協会	広島県ユネスコ連絡協議会		【個人会員代表】 8			
	佐渡ユネスコ協会	萩ユネスコ協会		及川 幸彦			
	(一社) 青森県ユネスコ協会	下関ユネスコ協会		小山田 隆			
	福島県ユネスコ連絡協議会	鳥取ユネスコ協会		木曾 功			
関東	郡山次世代ユネスコ協会	石見地区ユネスコ協会		坂口 一美			
	茨城県ユネスコ連絡協議会	四国	新居浜ユネスコ協会		鈴木 佑司		
	藤岡地方ユネスコ協会		香川県ユネスコ連絡協議会		望月 浩明		
	太田ユネスコ協会		徳島ユネスコ協会		安田 昌則		
	高崎ユネスコ協会	九州	沖縄県ユネスコ協会		吉田 敦彦		
	蓮田・白岡地方ユネスコ協会		都城ユネスコ協会				
	柏ユネスコ協会		熊本ユネスコ協会		【日本ユネスコ国内委員会委員】 9		
	(特活) 市川市ユネスコ協会		佐賀ユネスコ協会		大濱 淳子		
	成田ユネスコ協会		鹿児島ユネスコ協会		押谷 一		
	杉並ユネスコ協会		大分県ユネスコ協会連盟		小池 治		
	(特活) 目黒ユネスコ協会	久留米ユネスコ協会		鈴木 昌徳			
	朝日生命ユネスコクラブ			高木 要志男			
	東京都ユネスコ連絡協議会	【全国的青年連絡組織代表】 8		藤本 恵子			
	栃木県ユネスコ連絡協議会	ブロック	氏名	協会名	松本 千恵子		
	中部東	山梨県ユネスコ連絡協議会	北海道	欠員		丸尾 直彦	
厚木ユネスコ協会		東北	中谷 祐太	(公社) 仙台ユネスコ協会	吉田 達哉		
沼津ユネスコ協会		関東	吉田 理沙子	渋谷ユネスコ協会			
松本ユネスコ協会		中部東	長坂 亮介	飯田ユネスコ協会			
中部西	豊橋ユネスコ協会	中部西	今中 麻美	名古屋ユネスコ協会			
	岐阜県ユネスコ協会	近畿	タパ セカル	(特活) 大阪ユネスコ協会			
	三重県ユネスコ連絡協議会	中国	内本 千恵	岩国ユネスコ協会			
	石川県ユネスコ協会	四国	川本 実弥	箕面ユネスコ協会			
	富山県ユネスコ連絡協議会	九州	野田 祐希	熊本ユネスコ協会			

■第75回定時総会

6月17日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

- 第1号議案 2022年度事業報告書(案)及び計算書類等(案)
- 第2号議案 理事・監事の選任
- 第3号議案 評議員の選任
- 第4号議案 定款・諸規程の改定について

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 報告事項

- ・2023年度事業計画書及び収支予算書
- ・ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

■第554回理事会

5月20日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 2022年度事業報告書(案)及び2022年度計算書類等(案)
 - (1) 2022年度事業報告書(案)
 - (2) 2022年度計算書類等(案)
- 3. 第75回定時総会の開催(案)
- 4. 次期役員(理事・監事)の選任における会長推薦理事候補(案)
- 5. 役員賠償責任保険の更新
- 6. 定款・諸規程の改訂について

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

- 1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 財務部会
 - (2) 組織部会
 - (3) 定款・諸規程改定検討部会
 - (4) 世界寺子屋運動部会
 - (5) 地域代表・青年代表理事会議
- 2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

- 1. 選考委員会報告
- 2. 2023年度-2024年度 理事会・評議員会・総会開催日程および運営方法について
- 3. 担当理事からの報告(アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 参加校募集について)及川理事
- 4. 2022年度 事業進捗報告
- 5. 代表理事の職務執行状況報告(2023年3月12日~5月19日)

6. 後援・共催事業

- 7. 第79回日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田について

■第555回臨時理事会

5月26日(金)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 理事・監事の選任について
- 2. 評議員の選任について
- 3. 第75回定時総会の開催(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

■第556回理事会

6月17日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 大学ユネスコクラブの内規および協力協定書の締結等について
- 3. 第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜の開催について(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

■第557回理事会

6月17日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

- 1. 代表理事・会長の選定
- 2. 副会長、代表理事・理事長の選定
- 3. 名誉会長、顧問の選任

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

■第558回理事会

7月15日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 2023年度以降の理事会運営に関する基本方針
 - ・基本方針(案)
 - ・部会等の設置(案)
- 3. 「ミャンマー寺子屋プロジェクト」バングラデシュでの教育支援実施について(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

- 1. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

III. 報告事項

- 1. 第57回評議員会議題(2023年8月5日(土))
- 2. U-Smile プログラム(地域協働型包括教育支援事業)進捗報告
- 3. 2023年度 事業進捗報告
- 4. 代表理事の職務執行状況報告(2023年6月18日~7月14日)
- 5. 後援・共催事業

■第559回理事会

9月16日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 宇部市とのこどもの未来共創に向けた連携と協力に関する協定書の締結の件

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

- 1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
- 2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

- 1. 担当理事からの報告(学校関連・災害復興支援) 安田理事
- 2. 2023年度 事業進捗報告等
 - (1) 2023年度 事業進捗報告
 - (2) ネパール寺子屋視察報告
- 3. 使途指定のない遺贈の配分について
- 4. 代表理事の職務執行状況報告(2023年7月16日~9月15日)
- 5. 後援・共催事業
- 6. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
- 7. その他

■第57回評議員会

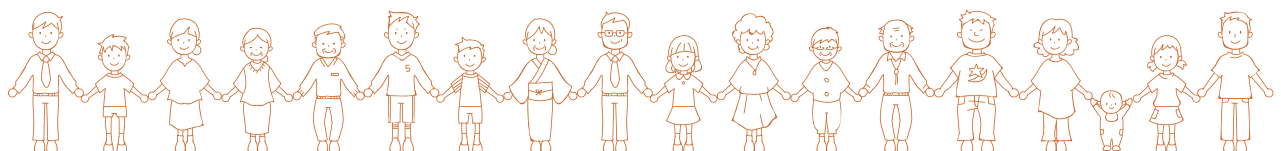
8月5日(土)、オンラインにより開催した。

- 1. 理事・評議員の紹介
 - 評議員会の構成・評議員の役割等
 - 理事と評議員との連携等について
- 2. 2023年度以降の理事会運営に関する基本方針
- 3. 2023年度 事業計画書に対する今後に向けた意見(要望)等
- 4. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
- 5. 2023年度の評議員会日程について

◆新規加入 維持会員のご紹介◆

株式会社増田屋コーポレーション 代表取締役社長 齋藤 晴正

株式会社増田屋コーポレーションは、江戸時代の創業より300年間、子どもたちのため、玩具の製造に携わって参りました。これからも子どもたちの未来を大切に、教育や文化の振興に貢献して参ります。



トルコ・シリア大地震への 緊急支援募金報告

2023年2月6日にトルコ、シリアで発生した未曾有の大地震に対し、人道的観点から、被災された両国の方々へ少しでも手を差し伸べるべく緊急支援を広く呼びかけました。その結果、1400万円以上（6月7日時点）の募金が集まり、緊急支援活動の活動資金（食料、シェルター、生活必需品、水・衛生、保健・医療、教育など）として、全額を「特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム」に送金しました。ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

※5月31日をもって募金の受付は終了しました。

お知らせ

年間領収書の発行と送付のお知らせ

日本ユネスコ協会連盟への寄付金は、確定申告していただくことにより、税法上の優遇措置を受けることができます。2023年1月1日～12月31日に受領したご寄付の年間領収書は、2024年2月上旬頃までにお届けする予定です。紛失などによる領収書の再発行は承ることができませんので、申告時まで大切に保管していただきますようお願いいたします。なお、以下の点にもご留意ください。

- ◆クレジットカードでのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社から日ユ協連に入金された日が受領日となります。11月以降にクレジットカードで寄付された場合、当連盟への入金が翌年1月以降になることがあります。
- ◆今回発行分より領収書の名義や送付先住所を変更される方は、2023年11月30日（木）までに書面またはメール、もしくはお電話でお知らせください。

●問合せ：総務部（大嶋）

E-mail : soumu@unesco.or.jp
TEL : 03-5424-1121



「2022年度 活動レポート」発行

2022年度に国内外で実施した活動をまとめた年次報告書「2022年度 活動レポート」を7月に発行し、寄付者の皆さまや会員の方々に配布しました。

当連盟HPからもダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。



「2022年度 ユネスコ協会就学支援奨学金レポート」発行

2022年度の事業報告書「ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2022」を発行し



ました。

現奨学生、保護者、元奨学生へのインタビュー、現地から届いたお便りなどを通じて、東日本大震災被災地の12年と「いま」をお伝えします。



アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 2023年度助成校 (30校) 決定

日本全国から30校の助成校が決定しました。新設した「ユネスコ協会協働枠」では、奈良女子高校(奈良ユネスコ協会)、三池工業高校(大牟田地方ユネスコ協会)が選ばれました。助成校一覧、本プログラム詳細は下記HPをご覧ください。

<https://unesco.or.jp/gensai/>



TBS

世界遺産 THE WORLD HERITAGE

世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

10月～12月ラインナップ

10月 1日	放送休止
10月 8日	【8K特別編】 メンフィスとその墓地遺跡 (エジプト)
10月15日	クイーンズランド湿潤熱帯地域 (オーストラリア)
10月22日	ブルゴーニュの葡萄畑の景観 (フランス)
10月29日	放送休止
11月 5日	ティカル国立公園 (グアテマラ)
11月12日	企画「大秘境SP」
11月19日	放送休止
11月26日	ヨセミテ国立公園 (アメリカ)
12月 3日	ロドス島の中世都市 (ギリシャ)
12月10日	ヴァッハウ渓谷の文化的景観 (オーストリア)
12月17日	すべて見せます！ベストショット2023
12月24日	放送休止
12月31日	放送休止

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>